

平成30年度 第1回 エルシーブイ放送番組審議会 議事録

■開催日時 平成30年6月25日(月) 午後1時00分～午後2時30分

■場 所 エルシーブイ株式会社 本社1階会議室

■出席者 委員総数 5名

出席委員 (5名)

市川 純章 委員

河西 滋子 委員

杉本 研一 委員

井上 淳哉 委員

菊池 大介 委員

放送事業者側 (5名)

吉野 祐輔 取締役常務

佐久 章展 放送制作部長

吉田 和晃 放送制作部 報道課長

山岡 正和 放送制作部 制作課

原田 久美子 事務局

■議 事

1. 審議事項

【審議番組】 「スノーボードライフ ～プロ一年目の挑戦～」
(2018年3月19・20日放送 29分番組)

<委員からの主な意見>

□評価意見

- ・ドローンなど新しい機材での撮影に挑戦したことは大変良かった。冬季のゲレンデという悪条件の中で、画面に安定感があり、構成、撮影角度等は迫力があつた。
- ・映像のクオリティは高かつた。ドローンの使い方等よくできていた。
- ・ドローンは、要所要所で使っていて、格好よく見せるための手段としては有効だと思つた。
- ・映像がきれいだったので、資料DVDを3回くらい見直した。
- ・映像はとても良かった。ドローンだと気付かないほど自然だつた。

□指摘意見

- ・主人公の丸茂さんへのインタビューは何度も出てくるが、丸茂さんについて語る人のインタビューが1人だけだつた。ご両親やスキー場の経営者、子ども達などの声もあればよかつた。
- ・丸茂さんの人物にフォーカスを当てるようなストーリーがなかつた。応援する家族、若者に伝えたいこと、怪我などについてもドラマがなかつた。内容的に練りがなかつた。
- ・彼を応援する地元の人が映っておらず、LCVらしきがないと思つた。
- ・時間を追つてあつたことを羅列しているだけの印象。
- ・映像はきれいだが内容がなかつた。ドローンへのこだわりが強いが、映像を見せたいのなら題材を変えた方がいい。内容か映像どちらかに寄つた方がよかつた。
- ・資料によると番組のターゲットは若者ということだつた。大人の立場では応援したい気持ちで見られたが、若者や子ども達がやってみたいという気になるためには、もうちょっと別の語り口があつたのではないか。
- ・ウィンタースポーツ人口が減っている原因や状況について、もう少しアプローチがあれば、丸茂さんの頑張りが際立つたのではないか。
- ・丸茂さんのコメントは、夢を語るころを最後にした方がよかつた。
- ・大会の優勝者等のパフォーマンスも見られたら、丸茂さんとの比較になつたのでは。
- ・ハッピーエンドにならなかつたが、丸茂さんのさわやかな表情に救われた。
- ・抑揚なく淡々と進んでいく。丸茂さんも落ち着いた印象だつた。一瞬熱くなる場面があればメリハリがついて、さらに映像も活きたのではないか。
- ・内容がタイトルと違ふと感じた。映像を見せるのが中心であれば別のタイトルもあつたのではないか。
- ・年齢を「にじゅっさい」と言っていたが、「はたち」という言い方でないのはなぜか。
(→ 報道では「にじゅっさい」というのが一般的だが、視聴者が違和感を感じることもあるかも)
- ・スノーパークの紹介で、コースの形がわからなかつたので、ポップアップ画面等での説明があればわかりやすかつた。

- プロスノーボーダーとは、アマチュアと何が違うのかよくわからない。
- イベントの参加者が皆ゴーグルやマスクをつけており、年齢層がまったくわからない。その辺がわかると見ていて面白い。
- スノーボーダーにマイクをつけて撮影すれば、雪を削る音などが拾えて臨場感が出たのでは。
- ドローン等での撮影は、時代の流れや技術革新などを実感した。
- 番組にドローンを登場させるという手は考えなかったか。
- 撮影のプロセスがあってもよかった。